

## 中間テストが終わりました

10月3日(月)～7日(金)に中間テストが行われました。1学期、なかなか思うような結果が出せなかった生徒はこのテストで巻き返しを図ったのだと思います。いかがだったでしょうか？今回はテスト期間中に自宅学習日も設けられ、前回よりも勉強時間がしっかりとれたことでしょう。今週あたりにテストがどんどん返ってきますが、点数に一喜一憂するのではなく、何ができて、何ができなかったのか冷静に分析し、今後の勉強に生かしていきましょう。期末テストは11月29日(金)からですので約2か月落ち着いて勉強できます。ただ、模試はありますので、毎日学習時間を確保し、着実に力をつけていきましょう。

## 農大・東京情報大進学のおすすめ

9月に多くの3年生が農大進学のために出願をし、10月に入り、農大進学者のための推薦会議が行われています。多くの農二生が進学を希望しておりますが、農大・情報大進学の魅力は何か、そして、どのように出願するのか、1,2年生は自分の将来の選択肢の一つとして、知っておいてほしいと思います。

まず、本校は東京農業大学と東京情報大学の併設高校なので大学入学試験においては、特別な優先枠があります。ここが他の高校と大きな違いです。食料・環境・健康・バイオマスエネルギーの4つのキーワードを掲げる農大には6学部23学科があり、東京都世田谷区・神奈川県厚木市・北海道網走市と実学を学ぶフィールドとして3キャンパスがあります。農大では農業だけではなく、醸造や園芸、そして、経済学や地域活性化について学ぶこともできます。例えば、「食」に関する幅広い基礎教養を身につけた後、農家や畑だけではなく、市場やスーパーなどの生産現場などでの密度の濃いフィールドワークを経験することもできます。その上で、課題解決の方法として、経済学、行政学や6次産業化を学びより実社会とのつながりを意識しながら、興味のある学問領域を学べる点は農大の強みであると思います。

また、千葉県千葉市にある東京情報大は2学部で構成されており、めざましい速度で進んでいる情報化社会の進展に対応すべく設置された総合情報学部、またITに強い人材の育成というユニークな取り組みが注目されている看護学部があります。このように世の中の変化やニーズに対応しながら発展を続けている大学です。

本校では、毎年多くの生徒が優先入試制度を利用しています。学内における選考試験を突破し、各大学で本試験に臨みます。農大の本試験は、昨年度より変更され、小論文がなくなり面接のみの試験となりました。ただ、出願時の提出書類に事前課題が課せられ、23学科ごとにテーマが異なります。これは大学から受験生に対して、学部学科に対する理解を高めてほしいという狙いがあり、面接試験でも内容について深く掘り下げられますので



十分な準備をして取り組む必要性があります。また、農大では昨年度より新たな入試形式である併願総合型選抜が導入されました。今までの選抜制度は、総合型選抜(単願)のみであり、東京農業大学を第一志望とする生徒を対象としていました。国公立大学を第一志望とする生徒は、他の私立大学の受験と同様の日程(年明け)となり、選考の厳しい一般入試での受験という選択でした。この併願総合型選抜では、国公立大学を第一志望としている生徒も総合型選抜(単願)を利用する生徒と同様の試験内容とし、同じ日程(年内)で結果が出ます。また国公立大学の学校推薦型選抜入試とも併願が可能で、国公立大学にチャレンジし、私立大学を農大と考えている生徒にとっては大変優遇された入試制度となっています。初年度となった昨年も、この制度を利用し、農大を合格して、その後無事に第一志望の国公立大学に合格した生徒が複数名出ました。今後はさらに希望者が増えると予想されます。

併設大学でこの分野の研究が行いたい、併設大学でこそ自分の夢が実現できるという目的意識の高い生徒に進学を目指して欲しいと考えています。

## 秋の E 判定からの大逆転合格のために



3年生は模試をほぼ毎月のように受けています。そして、その結果も返ってきて、期待する成績の伸びが見られている生徒、そうでない生徒などさまざまだとは思いますが、自分だけでなく、ほかの全受験生も自分の人生をかけて勉強しているのですから、なかなか自分だけぐんぐん成績が上がるというわけにはいきません。しかし、やらなければ、どんどん差がつくだけですから、ここはとにかく踏ん張りどころです！1, 2年生はまだまだ先のことは思わず、今から準備していきましょう。

過去の受験生の中で秋の模試の学校判定が E の生徒で最終的に合格をもぎとった生徒がいます。その生徒たちが何をしたのか、共通することは弱点分析と弱点克服です。その例を少し紹介したいと思います。

<生徒 A さん> 数学が最終的に伸びたのは、問題が解けなかった原因を分析したことです。数学の問題では、「なぜ解けないのか？」を自分なりに考え、原因を分析して、対策を立てて、繰り返し演習をしました。徹底的に基礎力をつけるためにはとにかくアウトプット＝ひたすら問題を解くことだと思います。結果的に理解だけでなくアウトプットとすることで、より理解が深まりました。

<生徒 B さん> いつも英語の長文では時間が足らず、自分の速読力のなさに苦労していました。英単語をきちんと覚えておらず、文中にでてきても意味が分からないものが多くて、焦っていたのが原因でした。そんな中、効果があった対策は、スキマ時間での基礎固めです。「だるいなあ……」と思う時も、5分くらいのちょっとした勉強をすることで、やる気が出てくることもあります！単語に毎日コツコツと取り組むことで瞬発的に理解することができるようになり、読む速度に大きな変化がありました。

夏休みは基礎固め、秋からは演習というのが一般的な受験勉強とされていますが、とにかく基礎が固まっていなければ、いくら演習に取り組んでも実力はつきません。もし基礎固めが夏休みで終わらなかったという場合も、焦らずしっかり基礎固めに取り組んでいきましょう。基礎がある程度、固まっている生徒はいよいよ演習の時です！基礎問題や過去問より難易度が低い応用問題などを短い時間で確実に解けるようにしてから過去問に取り組むのがベターです。そのような形で1段階ずつ階段を上げるように学力をつけていける人こそ、秋から成績が伸びる受験生だといえるでしょう。がんばれ！受験生！

## 勝負の模試がいよいよ！

二学期は全学年、たくさん模試がありますが1, 2年生にとっては夏休みと二学期の取り組みの成果がでる模試です。11月の模試で飛躍的な伸びを見せた生徒は今後さらなる飛躍が見込まれます。農二生全員で結果を出したいところです。また、3年生はこの時期からさらに多くの模試を受けることになります。しかし、あまりに数が多いとなんとか受けたり、惰性で受けてしまうこともあるかもしれませんが、これからの受ける模試は志望校判定会議や三者面談で使われる大事な模試です。一つ一つ丁寧に受けていきましょう。



ここで、模試を受けるときにどのような点を意識すべきかですが、まず1つ目に「本番の形式や雰囲気を意識する」です。どんなに勉強が出来る生徒でも、本番の雰囲気に飲まれて自分の実力を100%発揮できなければ第一志望合格は厳しいです。問題形式自体への慣れは過去問等で出来ますが、本番の雰囲気への慣れは模試でしかできませんのでただ受けるのではなく、本番を意識して、ある程度の緊張感をもって臨みましょう。2つ目に「志望校までの距離を知ること」です。相対的な自分の学習状況について知れる機会は模試しかありません。志望校の判定はすべてEとかだと自分の立ち位置がわかりません。ある程度、志望校は段階で選択し、今の自分の立ち位置を把握しましょう。そして、今の自分には何が足りないのか、そして、どうすれば、そこに届くか客観的に判断することが大切です。そして、最後に「次に向けた目標を作ること」です。受験まで残り時間はあまり多くはないですが、まだまだ、伸びるチャンスがあります。細かい目標を立てて、すべきことを明確にして取り組んでいくことで今後の飛躍が見込まれます。

### ➤ 今後の模試日程

- <1, 2年生> 10月23日(日) 駿台全国模試(2年希望者)  
10月23日(日) 駿台全国模試(1年Iコース全員、GIIIII希望者)  
11月 8日(火) 進研総合学力テスト(1, 2年全員)
- <3年生> 10月 7日(金)、9日(日) ベネッセ記述模試(全員)  
10月16日(日) 河合第三回記述模試(全員)  
10月23日(日) 河合大学別模試(希望者)  
10月29日(土)~30日(日) 駿台ベネッセ共通テスト模試

- 11月 3日(木) 駿台大学別模試(希望)
- 11月 12日(土)~13日(日) 河合全統プレ共通テスト模試(全員)
- 12月 3日(土)~4日(日) 駿台プレ共通テスト模試(希望)

## 保護者対象進路研究会の実施

9月10日(土)に第3回保護者対象『進路研究会』を開催しました。今回のテーマは『受験生への保護者のサポート』についてということで、受験を控えた子どもにどう接するべきか、家庭でできる受験生へのアプローチ、学校と連携して行わなければいけないことについて、ライセンスアカデミー講師の大久保陽造先生よりお話ししていただきました。これからよいよ受験が始まっていきます。家庭が「勉強しなさい」「もっと頑張れ」などの声かけは、受験生にさらなるストレスを与えかねません。勉強面に関しては学校が最大限サポートするつもりでおりますので、ご家庭では心身の健康管理をお願いします。生徒は思っている以上に焦り、不安、ストレスを感じています。「私たち(親)はあなたの味方だよ。何かできることがあったら遠慮なく言ってね。」と一言声をかけるだけで、救われるのではと思います。生徒、家庭、学校が一つになって「合格」という勝利をつかんでいきましょう。

## 高校2年生対象進路ガイダンスの実施

9月30日(金)に高校2年生に向けての進路ガイダンスを行いました。群馬大学、前橋工科大学、群馬県立女子大学、高崎経済大学といった県内の大学だけでなく、筑波大学、千葉大学、信州大学といった他県の国公立大学、また、法政大学、中央大学、東京理科大学、芝浦工業大学といった県外の私立大学から講師をお呼びし、大学に関する説明会を実施しました。3部構成で生徒は自分の興味のある大学のブースに話を聞きに行き、積極的に質問をしていた様子です。以下は生徒のコメントです。

・説明会を聞いて、自分で考えることが大事だと思いました。高校のようにみんなで考えたり、行動するのは違い、大学は自分が何をしたいのかで行動して行くことが多くなるのでこれからは自分の考えや意思をしっかりとって生活していきたい。

・群大は宇大との共同教育学部だから栃木の教育現場の話も知ることができるとがわかった。群馬の教育現場以外のことも知れることは教員の試験を受ける上で強みになると思う。

・どこの大学を受けるにもアドミッションポリシーは大事だと思いました。また、それぞれの大学の協定校や留学先などの他の視点から大学を選ぶことも大切であると思った。